



© 厚生労働科学・中村道 2002

喫煙者一人当たりの企業コスト

- シアトル大学のワイス博士らの研究によると、喫煙による経済的な損失として、企業が1人の喫煙者を雇うことによって、年間55万円もの余分なコストを支出していると報告している。
- 具体的には労働時間の損失と常習欠勤による労働生産性の低下に基づく損失が24万円と、全体の約半分を占めている。
- 非喫煙者への影響を含めた喫煙による健康障害による損失が全体の約3割を占めている。
- そのほか、OA機器の寿命の短縮や空調フィルターの交換など、メンテナンス関係費用が全体の約2割を占めている。
- このような根拠に基づいて、アメリカなどの欧米先進国では職場の禁煙化を進めるとともに、従業員に対する禁煙プログラムを実施したり、非喫煙者を採用するなどの対策を行っている。

保健医療プログラムの経済効率性の比較

保健医療プログラム	費用/QALY	保健医療プログラム	費用/QALY
コレステロールの検査と食事療法	7 万円	コレステロールの検査と治療 (25-39歳)	439 万円
頭部外傷の神経外科的介入	7	在宅血液透析	536
一般医の禁煙アドバイス	8	冠動脈バイパス移植 (1枝、中等症)	585
クモ膜下出血の神経外科的介入	15	継続的外来腹膜透析	617
脳卒中予防の高血圧治療	29	病巣血液透析	682
ペースメーカー移植	34	エリスロポエチン治療 (透析患者の貧血、10%死亡率減少)	1689
大動脈狭窄症の弁置換	35	悪性頭蓋内腫瘍の神経外科的介入	3347
股関節置換	37	エリスロポエチン治療 (透析患者の貧血、死亡率減少なし)	3921
コレステロールの検査と治療	46		
冠動脈バイパス移植(左主枝、重症)	65		
腎臓移植	146		
乳がん検診	179		
心臓移植	243		

(注)原表の1990年の値を、購買力平価、消費者物価指数により1995年の値に換算

(Mason5, 1993から)

© 厚生労働科学・中村道 2002

保健医療プログラムの経済効率性の比較

- 保健医療プログラムの経済的評価の結果を経済効率の優れた順に整理すると、一般医による禁煙アドバイスは、QALY(生活の質を調整した生存年)を1年延長するのに要する費用は10万円未満であり、コレステロールの検査と食事療法、頭部外傷の神経外科治療などと同様に、経済効率性の最もよいプログラムの1つと考えられている。
- このほかの研究においても、禁煙プログラムは経済的効率が極めて優れていることが一致して報告されており、保健サービスの経済評価の黄金律(gold standard)として位置付けられている。